

東舞子小学校 六年 国語

ノートの書き方の例を見ながら、五年生で使っていた国語のノートに課題をしましょう。

家庭学習課題 No.6 (2時間分)

「帰り道」のNo.5の学習はどうでしたか？ーフリや教科書のQRコードを利用しましたか？まだの人はぜひチャレンジしてみましょう。また、本を読んだ時に「帰り道」で学習した“視点”を意識して読むとより物語を楽しめると思います。

1. 課題内容：「春のいぶき」(P.38～P.39)

めあて 二十四節気について知り、その意味と言葉がわかるようになる。また、「春」を感じる言葉を集めよう。

葉を集めよう。

2. 提出方法：次回登校するときに持って行きましょう。

3. 準備するもの：教科書、ノート、筆記用具

(参考資料 「神戸市の六年生のみなさんへ」の手紙)

4. 課題のすすめ方：できた番号には□に✓をいれましょう。

□(1) あなたにとって、「春」は、どんなイメージですか。ノートに書いてみましょう。

□(2) 「春」を感じる言葉をできるだけたくさん集めてみましょう。

※ 東舞子小学校のホームページのこべっこ家庭学習のページに学校で作った「春のいぶき」の動画があります。まず、その動画を見ましょう。

(また、これまで、みなさんは教科書でも季節の言葉を学習しています。二年生～五年生の教科書を持っている人は、開いてみるといいよ。)

□(3) 教科書を開きましょう。集めた言葉の中に、教科書の言葉はありますか。チェックしてみましょう。

□(4) 六年生では、季節の言葉として新たに「**二十四節気**」を学習します。「二十四節気」の言葉と意味を、ノートに書き出しましょう。意味を書くのは、立春～穀雨までです。

※次の時間に、「春」の俳句や短歌を作ります。自分の伝えたい「春」について、考えておきましょう。大切な家族、今、会えない友だちや先生に紹介したくなるような、お気に入りの俳句や短歌ができるといいですね。

五月十八日(月) 〇時〇分〜〇時〇分

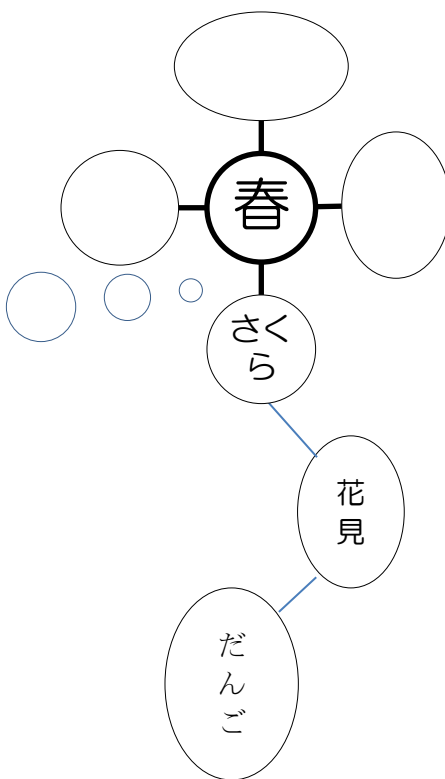
P.38 「春のイメージ」

(1) 春のイメージを語ろう。

暖かい。花がさき始める。...

(2) 春を感じる言葉を集めよう。

例①「春」という言葉からイメージを広げる。



ノートの真ん中に「春」と書き、
そこからイメージを広げ、言葉
を書き足していこう。

五感(目・耳・手・口・鼻)をはたらかせて、
想像してみよう。

例② 動植物、くらしや行事、気象に関する言葉などを表で自分なりにまとめてみよう。

| くらしや行事 | | | | 動物、植物など | | | |
|--------|--|--|----|---------|--|--|------|
| | | | 花見 | | | | やまうし |
| その他 | | | | 食べ物など | | | |
| | | | | | | | だんご |

五月 十九日 (火) 〇時〇分～〇時〇分
(4) 二十四節気をまとめよう。

立春(りっしゅん) 二月四日

こよみの上で、春が始まる日。まだ寒さはきびしいが、だんだん日がのび、木々が芽びらいてくる。

雨水(うすい) 二月十九日

降る雪が雨に変わり、深く積もった雪も解け始める。このころから、早春の気配が感じられるようになる。

啓蟄(けいちじ) 三月六日

地中で冬眠していた虫がはら出てくるころという意味。春は、もつまもなく本番になるころである。

「二十四節季」は、漢字も読み方も難しいけれど意味がわかれば、なるほぞ思っよ。
例えば、啓蟄という言葉の「啓」は開くという意味で、「蟄」は虫という意味。土の中に閉じて暮っていた虫が、地上にはい出てくるという意味になるんだね。